

クラス番号	617	担当教員名	小松 理佐子
テーマ	人口減少社会を支える地域福祉システムを考える		
著書・論文	『生活支援の社会福祉学』（共）有斐閣、2007 年		
研究課題等	『対論 社会福祉学（第2巻）社会福祉政策』（共）中央法規出版、2012 年		
	「過疎地域における地域包括ケアシステムの構築の可能性」（単）（『日本福祉大学社会福祉論集』第134号）2016 年		
	「生活支援サービスとソーシャル・キャピタル」（単）（『ソーシャルワーク研究』43-2）2017 年		
ゼミナール概要			
キーワード：過疎、限界集落、コンパクトシティ構想、地域再生、生活支援サービス			
目的、内容、方法等：			
日本各地で、人口減少が進行しはじめています。「限界集落」と呼ばれる地域などでは、集落の機能の維持が困難になり、住み慣れた自宅で暮らし続けたいと思ってもそれができなくなりつつある地域が見られるようになっています。また、都市部でも、かつての商店街が「シャッター通り」となり、「まち中過疎」と呼ばれるような状況が生まれています。 こうした状況の中で、今後の人口減少を見越して、中心部に都市機能を集約させるコンパクトシティ構想に取り組む自治体が増えています。果たして、私たちの生活にとって望ましい地域は、どのようなものでしょうか。このゼミでは、生活という視点から、人口減少社会における地域の望ましいかたちを考えます。 「限界集落」と呼ばれる地域の中には、人々が知恵を出し合い、新しい地域づくりをする芽もみられています。こうした地域をみると、人口を集約することが最良の解決策とは言い切れないようにも思います。そこで、ゼミでは、コンパクトシティ構想を進める都市部の政策と、過疎地域で進められている地域再生の政策の両方を比較しながら、このテーマについて考えてみたいと思います。			
授業計画：			
＊3年次			
前期 過疎地域の取り組み、コンパクトシティ構想について、文献・資料をもとに学習します。			
後期 夏休みから後期にかけて、コンパクトシティ構想を進めている自治体と、過疎地域の自治体の実地調査を行います（岐阜県高山市のまちづくり協議会の活動に関わりながら進めます）。			
＊4年次			
前期 卒業論文のための研究を進め、卒業論文の執筆に取り組みます。			
後期 卒業論文の完成させた後、国家試験対策の学習をします。			
担当教員からのメッセージ			
ゼミのモットーは、「良く遊び、良く学ぶ」「ポジティブな発想」です。 これからの地域を支えるタフな人材を育てたいと思っています。卒業後、出身地に帰って地域を支えたいという熱意のある人を歓迎します。			